

群馬県立桐生高等学校通信制課程 学校評価一覧表 (令和7年度版)

(別紙様式)

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合		
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	○本校通信制課程に入学して良かった(学校生活に満足している)と思っている生徒が70%以上である。	○オリエンテーションや個別面談を通して、本校通信制課程の学びのスタイルを説明する。また、学校行事等の参加を促し、帰属意識を高める。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活全般に渡って、生徒が主体的に活動し、充足感をもてるような環境作りができた。生徒それぞれが学校への帰属意識が高められるような環境作りを今後も検討していきたい。 生徒が各段階で主体的に学習し、段階進行・卒業に向けて努力できるように、指導や助言をさまざまな場面で行うことができた。次年度は行事予定を見直し、LHR等の時間を充実させるとともに、教科指導においてもさらに興味・関心をもてるような教材研究を重ね、より良い指導や助言を行っていききたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用して、生徒が特分の学習状況をチェックしたり、段階進行や卒業に向けての見直しなどがチェックできたりするツールができれば、より生徒の主体的な学習につながるのではないかと。
		○各段階ごとに自分で履修科目を選ぶ本校の教育課程が、自分の興味・関心を引き出す学びにつながり、満足していると思っている生徒が70%以上である。	○生徒が自分で選んだ科目について、興味・関心を持って授業に取り組み、自らの学びを深められるよう、授業改善に取り組む。	A	A	A		
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	○「生徒学習状況表」を年2回生徒に配布し、学習指導に活用している。	○レポート・テスト・スクーリングの進捗状況がわかる個人別「生徒学習状況表」を学期末を目安に配付し、それをもとにその後の学習の進め方を計画できるような適切な指導を行う。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 「生徒学習状況表」を学期中や学期末など、複数回配布し、生徒がその都度、自身の現状把握やその後の学習計画に役立てることができた。今後も丁寧に計画、指導していききたい。 生徒の実態に合わせ、特別活動の形態を考えて実施し、その中で生徒が積極的に参加する場面が多く見られた。特に、学校行事・生徒会行事などでは、大きな満足感を得たという声が多く寄せられた。通信制課程の中でも、集団で活動する行事に参加したり、実際に行事を運営する経験を重ねたことが、生徒の帰属意識を高める結果につながったと考えられる。 単位修得については、スクーリング時に行う対面指導はもちろん、Web掲載の月報「桐高通信」やメール、担任による個別面談など、さまざまな手段で生徒の学習・単位修得への動機づけや指導を行った。その中で多くの生徒が単位修得につながる事ができたが、単位修得に至らなかった生徒も少なくはない。限られた指導機会の中で、どう効果的に単位修得につなげていくか、個々の生徒の実態を踏まえながら対策を模索していききたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 各生徒によって登校する頻度が異なる中で生徒の実態把握や生徒とのコミュニケーションをとること自体が難しいと感じる。ICTをうまく活用し、それぞれの生徒に合ったコミュニケーションツールを模索するとよい。
		○特別活動(LHR・学校行事・生徒会行事など)に満足していると思っている生徒が65%以上である。	○生徒の実態を踏まえ、主体的に学校行事へ参加できるように促し、本校への帰属意識を高める。	A	A	A		
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	○単位修得者の割合が、50%以上である。	○「生徒学習状況表」等を活用して計画的に学習を進め、単位修得につながるよう、それぞれの生徒の実態に応じた丁寧な指導を心がける。	B	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校いじめ対策組織を定期的に関ぎ、心配な生徒の情報等を職員間で積極的に共有した。また、いじめアンケートや学校生活アンケートを定期的実施し、生徒のサインを見逃さない体制構築に努めた結果、今年度のいじめ認知件数は0であった。 未然防止の取り組みとしては、年度当初にe-ネットキャラバンの講師による「スマホ・ケータイ安全教室」を開催し、スマホやインターネット使用時の具体的なトラブルについて学んだり、新入生歓迎会等の行事で、生徒会役員よりスマホ利用ルールの啓発を行うなど、情報モラル意識の向上を図った。 近年は発達障害や知的障害の特性を持つ生徒の在籍が増加傾向にあり、それと比例するように対人関係のトラブル等が増加し、従来の教育相談の枠組みだけでは対応に苦慮する事例も散見される。こうした状況に対し、入学時の健康アンケートによる早期の生徒情報の把握と職員間の共通理解を徹底した。特に心身に課題を抱える生徒への支援や緊急時対応については、養護教諭を中心に組織的な対応フローを確認し、全職員で共有することで、個々の状況に応じたきめ細やかな支援体制の充実に努めた。今後は、関係機関や専門家との連携をさらに深め、多様な背景を持つ生徒一人ひとりに寄り添った相談体制の構築が課題である。 	
		○職員会議やいじめ対策委員会などの会議を月1回以上行い、生徒情報の共有や学校運営の円滑化を図る。	○月1回以上の定例会議を基本とし、必要に応じて臨時の会議を設け、職員間で連携をとって指導に当たれる体制を整える。また、各職員も学校運営方針や今年度の重点目標に基づいた目標設定を行い、学校運営の円滑化を目指す。	B	B	B		
		○学校からの指導(講演会・桐高通信・スマホルール等)を通して、SNS等の危険性について理解が深まったと思う生徒は70%以上である。	○専門家による講演会を実施し、SNSでのトラブルや危険性の認識を高める。また、生徒会活動としてスマホ利用ルールを作り、どうすればトラブルを回避できるか対策を考えさせることで当事者意識を高める。	A	A	A		
4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	○質問や心配なことがあるときに先生に相談しやすく、先生は誠実に対応してくれると思う生徒が60%以上である。	○普段から生徒への声かけを行い、相談しやすい雰囲気をつくるように教職員へ働きかける。また、スクールカウンセラーを利用しやすい環境作りを努める。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 健康アンケートを活用し心身の問題を抱える生徒情報を職員間で共有する。養護教諭との連絡体制の徹底を図る。緊急時の対応について点検をする。 	
		○学校で行ういじめ予防の取り組みやいじめに関する調査が適切に行われていると思う生徒が70%以上である。	○普段の生徒への声かけやいじめアンケートの実施を通して、いじめ防止に努め、早期発見に努める。	A	A	A		
		○あなたの学校での生活は安心して快適であり、体調不良になった時には適切に対応してくれると思う生徒が70%以上である。	○健康アンケートを活用し心身の問題を抱える生徒情報を職員間で共有する。養護教諭との連絡体制の徹底を図る。緊急時の対応について点検をする。	A	A	A		
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	○進路についての情報が学校から適切に提供されていると思う生徒が60%以上である。	○月報や面談等で得た個々の生徒の情報を共有し、生徒の状況や進路希望をもとに組織的な情報発信に努める。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 進路情報の提供については、適切になされているという一定の評価を得ている一方で、自身の進路実現に向けた主体的・積極的な取り組みに欠ける生徒が約3割見受けられる。進路行事や情報の提供が、必ずしも生徒一人ひとりの当事者意識の向上に結びついていないことが喫緊の課題である。今後は生徒の動機付けを促す指導内容の充実に向け、進路指導計画の再検討が必要である。 担任と進路指導部の連携において一部課題が残った。次年度は職員間の情報共有システムを再構築し、学校全体として一貫性のある適切な進路指導が行えるよう、円滑な情報共有を徹底し、組織として生徒をバックアップできる指導体制を整えることが今後の重点課題である。 	
		○進路説明会や進路講演会等は、進路を考えるうえで適切なタイミングで適切な頻度で行われていると思う生徒が60%以上である。	○生徒へのアンケート調査等を行い、生徒のニーズに合った進路行事を企画する。	A	A	A		
8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	○進路実現に向けて積極的に取り組んでいると感じている生徒が50%以上である。	○生徒の進路に対する考え等を理解するために、調査を行う。また、平日登校等と呼びかけ、指導機会を増やす。	B	B	B			
	○月報「桐高通信」には、学習や学校生活に必要な情報は提供されていると思う生徒・保護者が70%以上である。	○生徒の月報の内容および見やすさについて常に工夫と見直しを行う。年間を通じて計画的に発行する。	A	A	A			
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭・地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	○桐高通信制のWebサイトで情報は適切に提供されていると思う生徒が70%以上である。	○Webサイトを適時且つ有効な情報発信の場と考え、月に1回以上の更新を行う。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 月報は内容や構成を分かりやすくして、伝わりやすいように心がけている。情報を提供するタイミングを考えたり、大事な情報は複数回掲載したりするなど、今後も気をつけていきたい。 Webサイトで必要な情報は随時更新して、多くの生徒が利用している。加えて、月報の発行時の連絡や学校からの連絡など、一斉・個別メールで随時行っている。今後は、より多くの人に必要情報が伝わるよう、後方の仕方の工夫を継続していききたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は商業施設でがん啓発イベントを行うなど、地域社会に積極的に関わる経験をしたと聞いている。今後も通信制の生徒が市内の企業や行事に参加し、社会と繋がることで「自分が役に立つ」と実感できる機会を作ってはどうか。
		○スクーリングの授業や交通安全指導、生活指導等の場面で、ICTを活用した指導を行っている教職員が50%以上いる。	○職員研修としてICT活用研修を行い、ICTの活用事例や具体的な活用の仕方を職員同士で情報共有し、授業での積極的な活用を促す。	A	A	A		
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	○教職員の70%以上が積極的にICTを活用し、業務改善を行っている。	○アンケートや学校行事の振り返りなどでGoogleフォームを活用し、業務改善を図る。また、生徒への連絡や地域への情報発信にメールやクラスルーム、Webページなどのデジタル媒体を活用することを推進する。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校Webページの充実により生徒連絡の利便性を高めるとともに、「すくーるねっと3」を活用した学習指導を定着させた。学校Webページはまだ改善の余地があるので、より見やすく、必要な人に必要な情報が正確に伝わるようブラッシュアップを図りたい。 教科指導においては、各科目の実態に即した柔軟なICT活用を各教職員が実践しており、次年度もこれらのデジタル基盤を軸とした教育活動を継続していく。 今年度は、前年までのkinako、すくーるねっと3、Google Workspaceを用いた業務を継続し、これまで紙や電話で行っていた予約・申請業務にGoogle フォームを積極的に導入し、デジタルでの集計管理体制を構築した。今後もより一層の業務改善を図っていききたい。 	
		11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。		A	A	A		